

編集方針

私たちはより多くのステークホルダーの方々にリコーグループを正しく知っていただくために、タイムリーかつ公平な情報開示を積極的に行っています。

本統合報告書は、経営方針や財務情報、ESG情報を整理し、開示することで、リコーグループの長期的な企業価値向上に向けた取り組みをより深く理解いただくことを目指しています。

リコーグループは、2025年に「はたらく場をつなぎ、はたらく人の創造力を支えるデジタルサービスの会社」を目指しています。本年の報告書では、その実現に向けた中長期の価値創造プロセスや取り組みを具体的な事例とともに紹介しています。

統合報告書やESGデータブック、ウェブサイト、さらに今年度からはTCFDレポートも加え、ESG情報に関する総合的な開示を強化しています。リコーグループの企業活動のさまざまな側面についてステークホルダーの皆様のご理解と共感を得るとともに、皆様からのご意見をさらなる経営の改善と企業価値向上に結びつけたいと考えています。

対象読者

リコーグループを取り巻くすべてのステークホルダーの皆様

報告範囲

株式会社リコーおよび連結子会社

報告対象期間

2020年度(2020年4月1日~2021年3月31日)について報告していますが、一部2021年度の活動についても掲載しています。

編集体制

広報室が主体となり、IR/SR部やESG戦略部、経営企画部と統合報告書の企画立案と全体構成の策定を行い、ESG委員会で承認を得たうえで発行しています。

制作にあたっては、各機能部門およびビジネスユニットの協力のもとで制作を進めました。また、価値創造プロセス図に関しては、ESG委員会などの経営層の会議で、社長や役員などと議論を重ねました。開示にあたってはESG委員会および開示委員会の承認を得ています。

現在リコーグループは、デジタルサービスの会社に向けた変革期にあります。企業価値向上に向けた取り組みを、投資家の皆様にお伝えするのはもちろんのこと、リコーグループ社員の一人ひとりが、会社の価値創造にどう寄与し、どのように社会の発展に貢献できているのかを理解することが重要だと考えています。

私たち一人ひとりが価値創造と社会とのかかわり方を自分ごととしてとらえ「はたらく」に喜びを自ら体現できるようにすることを目指して、編集にあたりました。

重大な組織の変化

なし

統合報告書
リコーグループの価値創造の全体像を統合的に開示

ESG データブック
「環境」「社会」「ガバナンス」に関するデータを開示

TCFD レポート
気候変動関連のリスクと機会をTCFDフレームワークに基づいて開示

ウェブサイト
IR、ESG、技術、製品・サービス情報などの事業活動について、網羅的に開示

参考にしたガイドライン

本報告書の編集にあたり、以下のガイドラインなどを参考に開示項目の過不足チェックを行い、開示の充実を図っています。

- ・ GRIスタンダード 1
- ・ 環境省 環境報告ガイドライン2018年版
- ・ 国連グローバル・コンパクト COP (Communication on Progress) 方針
- ・ 国際統合報告評議会 (IIRC) 国際統合報告フレームワーク
- ・ 経済産業省「価値協創のための統合的開示・対話ガイダンス」

昨年の報告書について、投資家、シンクタンクをはじめとする機関投資家の方々からのヒアリングを実施し、いただいたご意見をもとに改善を行いました。

WEB 詳しくはWEB GRI スタンダード対照表

